

各位

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント  
 代表者 代表執行役社長 徳田 一  
 (コード番号 6425)  
 問合せ先責任者 財務経理部長 桐生 慶久  
 (TEL 03-5530-3055)

## 平成22年3月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成21年11月12日に公表いたしました平成22年3月期通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)連結業績予想と、平成21年8月7日に公表いたしました平成22年3月期通期個別業績予想を下記の通り修正いたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	58,000	12,000	12,000	20,000	250.20
今回発表予想(B)	39,000	2,800	△100	22,600	282.95
増減額(B-A)	△19,000	△9,200	△12,100	2,600	
増減率(%)	△32.8	△76.7	—	13.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	19,993	△11,605	△13,224	△14,808	△185.26

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	54,500	10,000	10,000	2,000	25.02
今回発表予想(B)	32,400	2,100	2,400	△2,100	△26.29
増減額(B-A)	△22,100	△7,900	△7,600	△4,100	
増減率(%)	△40.6	△79.0	△76.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	9,904	△7,406	△6,168	△10,098	△126.33

修正の理由

<平成22年3月期 通期連結業績予想修正理由>

国内パチスロ事業では、第1～3四半期においては「緑ドン」、「青ドン～花火の極〜」、「銀河英雄伝説」等のヒット機種を次々に生み出すことができました。しかし第4四半期は、厳しい市場環境の中、年末・年始をまたいで大きな期待を持って開発した「バジリスク」の投入を開始しましたが、営業方針が不徹底であり、売上に繋げることが出来ませんでした。原因としては、本来この「バジリスク」の商品性はホール様が固定客を集客、育成する出玉性を有しているにもかかわらず、この販売戦略が、ホール様のご理解を得ることが出来なかったことです。

このことも有り、「バジリスク」「青ドン～花火の匠～」とも売上高が予想を大きく下回り、当初販売目標を達成できず、これらの第4四半期の売上は合計で6千台余りに留まりました。これをうけて、営業体制の立直しを図ったこともあり、一部の機種の市場投入を翌期に繰り延べました。以上より、従来の今期売上予想台数18万台に対して、約10万台の売上実績に終わりました。以上の事より、通期予想売上高を上記の通り修正いたします。

予想売上高が大きく低下する事、及び将来的な国際会計基準への移行も見据え、資産の評価を厳格化した事から、原価等が上昇する事によって営業利益も減少いたします。

当社の持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社の業績は、回復傾向にあるものの、利益貢献が過去の自社株買いに伴う評価の洗い替えに伴う償却額(年間32億円程度)を勘案すれば通期にて30億円程度の損失と、期初の想定を下回った為、経常利益を上記の通り修正いたします。

当期純利益においては、ウィン・リゾーツ社の子会社であるウィン・マカオ社が香港株式市場上場に伴い公募増資を行った結果、24,826百万円の特別利益を計上したことより、上記の通り修正致します。

<平成22年3月期 通期個別業績予想の修正理由>

売上高及び営業利益については上記<平成22年3月期 通期連結業績予想修正理由>に記載の通り。経常利益・当期純利益の修正理由は、営業利益が減少したためとなります。ウィン・リゾーツ社の利益貢献、及びウィン・マカオ社の公募増資に伴う特別利益は、連結財務諸表上のみ反映され、個別財務諸表には反映されません。

なお、平成22年3月期業績の詳細及び平成23年3月期の業績見通しについては、決算発表時にご説明いたします。

以上